

あきる野市地域生活支援拠点等の整備に関する基本方針策定委員会（第2回）

- 1 日 時 令和5年8月9日（木）午後3時～午後4時30分
- 2 会 場 秋川健康会館
- 3 出席者 縄岡委員、藤間委員、山野委員、柳瀬委員、篠田委員、加藤（暁）委員、加藤（文）委員、河井委員
- 4 議 事
 - (1) 第1回委員会に関する補足説明及び報告
 - ①他市の状況報告に関する補足説明
 - ②地域自立支援協議会及び第1回委員会であげられた地域課題について
 - (2) あきる野市における地域の課題について
 - (3) 地域生活支援拠点等の段階的整備について
- 5 会議録（概要）
 - (1) 第1回委員会に関する補足説明及び報告
 - ①他市の状況報告に関する補足説明
 - ②地域自立支援協議会及び第1回委員会であげられた地域課題について
 - ・事務局より資料に基づき説明
 - 質疑応答、意見
 - (委員) 他市の緊急時の受入れ・対応の実績について、利用期間や対応後に後に繋がった障害福祉サービス等について詳細な情報を得たい。
 - (回答) 次回会議までに確認し、資料を作成する。
 - (委員) 緊急時の受入れ体制等、市内の事業所のみで体制を整えられるかの懸念がある。他市では市外の短期入所事業所も拠点登録を可能としており、本市において受入れ先をどのように確保していくかの検討が必要。
 - (委員) 地域の体制作りとして、医療的ケアを必要とする障がい者（児）について、国が新たな入所施設を作らない方針を示す中、介護者の高齢化等を見据え、医療的ケアに対応したグループホームや在宅レスパイト等の整備を検討して欲しい。
 - (2) あきる野市における地域の課題について
 - ・事務局より資料に基づき説明
 - 意見
 - (委員) 拠点が機能を発揮するためには市民への周知徹底が必要であるため、広

報にも力を入れるべきではないか。

(委員) 地域課題が山積する中、拠点機能に基づき着手するかのポイントを絞らなければ運営は難しいだろう。当初は親の高齢化、障害の重度化の対応に特化し、それらに併せ専門的人材の育成、確保によって対応できる面を検討してはどうか。

(委員) 優先的に対応すべき課題に加え、地域資源の中でそれぞれの事業所が得意とする分野等の地域実態にあわせたネットワーク構築の視点が持てると良い。

(委員) 拠点運営が持続性を発揮するために、どのようにマンパワーを確保していくかも重要。面的整備の場合、基幹相談支援センター等の中心を担う事業所の負担が大きくなる。そこに予算や人員を充てていかなければ機能しないだろう。他の事業所でも厚生労働省の報酬加算に基づき、拠点登録するか否かが分かれるものと思われる。

(委員) 緊急受入れでは、障害特性によって対応できる職員が限られることもあり支援者の負担が大きくなる場合もある。緊急時の体制づくりでは、受入側の体制づくりが不可欠。事業継続のため、それらを踏まえ利用期間等の明確化や事業所間の連携を含めた支援体制の整備ができると良いと思う。この検討にあたっては短期入所事業所と計画相談支援事業所の意見のすり合わせの機会が必要なのではないか。

(3) 地域生活支援拠点等の段階的整備について

- ・ 拠点を段階的に整備するにあたり、優先すべき機能に関する意見交換を実施
意見

(委員) 相談及び緊急時の受入れ体制を優先すべきと認識している。現状、緊急時の受入れに対応する事業所が少ない印象もあるため、この整備ができると市民の安心につながるのではないか。

(委員) 先に意見も出たが、職員の負担を考慮した事業所の体制づくりと確保が必要。時には1法人の職員のローテーションではまかないきれないこともある。市全体の事業所でカバーできるようなシステムがあると良い。

(委員) 緊急時、受入れを行う場所がなければ支援が進まない。また、地域の体制づくりでは地域の社会資源を検索しやすくすること、当事者や家族が自らアクセスできるような手法が検討されると、主体性の発揮や自立に繋がるのではないか。

(委員) 拠点の整備目的に8050問題という視点が含まれる中、医療的ケアのある障がい者(児)について介護者のレスパイトを含めた検討を依頼する。

(委員) 優先順位としては緊急時の受入れが重要と考える。「緊急」の事由には虐待も含まれるが、拠点運営では一般に登録事業所を公表することが想定される。そのため利用者と事業所の安全への配慮を含め、拠点機能利用における対象選別をどのようにしていくかについても話し合うことが必要ではないか。

(委員) 他委員と同様、緊急時の受入れと考える。対象選別は必要だが、選別することで全てのニーズに応えられなくなることに葛藤もある。拠点機能として解決すべき地域課題を整理していく上でも、解決できない地域課題をそのままにするのではなく、何らかの拠点機能や他の制度に落とし込んでいくような視点で検討したい。

(委員) 緊急時の受入れについて、各事業所の想定する「緊急」のレベル、受入れ可否、現状受入れる際に必要な対応等について、短期入所事業所、計画相談支援事業所とで意見交換を行う場を設けてはどうか。緊急時の受入れについて具体的な内容を検討することで施策が進むものと思われる。

(委員) 今回の会議では拠点の段階的整備について、優先すべき機能は相談と緊急時の受入れとの意見の委員が多数であった。緊急時の受入れについては、その目的と利用期間等の内容について具体的な検討を要するとの意見もあったため、次回会議ではこれらについてより具体的な協議ができると良い。

6 閉 会

次回会議日程 日 時 令和5年10月26日(木) 午前10時～午前11時30分
場 所 301会議室